

地球温暖化対策への取組 (地球温暖化対策地域推進計画) (循環型社会推進課)

地球規模の環境問題として、現在、地球温暖化の進行が懸念されています。

平成9年には、先進国における温室効果ガス削減の数値目標を設定した「京都議定書」が採択され、平成17年2月に発効しました。

我が国は、2008～2012年の5年間の平均で、基準年(1990年)と比べて6%削減することを目標としており、地域でのさらなる地球温暖化対策への取組も求められています。

県では、平成12年3月に「高知県地球温暖化防止実行計画」を策定し、県の業務において省エネルギーを推進するなど、温室効果ガスの排出削減に取り組んでいます。

また平成16年3月には、高知県内で地球温暖化対策を推進していくための基本的なプランである「高知県地球温暖化対策地域推進計画」を策定しました。

この計画では、県内における二酸化炭素(CO₂)など温室効果ガスの排出状況、温室効果ガスの将来的な削減目標、また削減のための具体的な取組方法などを記載しています。

高知県では、1990年(基準年)に約940万トン、2000年に約1,180万トンのCO₂(全国の約0.9%、他の温室効果ガスはCO₂に換算)を排出していますが、計画ではこのCO₂排出量を2010年までに、基準年から2.9%削減させる目標を掲げています。

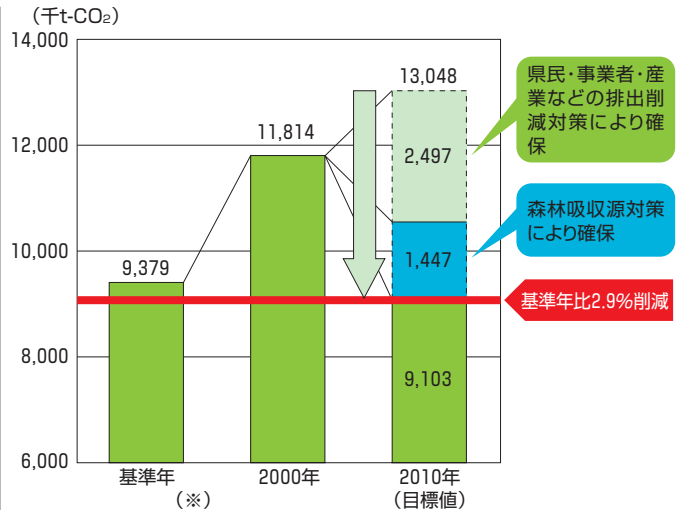
なお、平成19年に、新たな目標値を設定し、計画を見直します(特集を参照)。

○高知県における温室効果ガス排出の特徴

- ・1990年(基準年)→2000年の排出量は、全国が8.0%の増加に対し、高知県は26.0%の増加。
- ・2000年の1人あたり排出量は、全国が9.8トンCO₂に対し、高知県は14.0トンCO₂。
- ・部門別では、民生(家庭)系の伸び率が、1990(基準年)→2000年で33%増とトップ。
- ・セメント業を中心とする窯業・土石業関係の排出量は、県全体の約55%を占める。

※詳しい内容は、下記のURLに掲載しています。

<http://www.pref.kochi.jp/junkan/ontaiplan/ontaiplantop.html>



削減量3,944千t-CO₂の内訳

民生・運輸・廃棄物部門	974千t-CO ₂ 削減
産業部門	1,100千t-CO ₂ 削減
工業プロセス	333千t-CO ₂ 削減
代替プロセス	90千t-CO ₂ 削減
林業吸収源対策	1,447千t-CO ₂ 削減

地球温暖化防止 県民運動推進事業

[641千円]
(循環型社会推進課)

県内で地球温暖化対策を推進するための取組などを協議する「高知県地球温暖化対策協議会」(H16.8設立)において、平成19年度の事業として次の取組を実施します。

(1) クールビズ四国の推進【四国4県が共同で実施】

夏に軽装勤務を呼びかけ、職場の冷房温度を28℃に抑えることで電力使用量の削減を目指す取組です。

平成19年度は、商工団体・市町村などの協力を得て、6～9月の間に実施し、啓発のためのポスターを配布しています。

(2) ウォームビズの推進

冬の暖房時の温度設定を20℃(県庁は19℃)にすることで、エネルギーの使用量の削減を目指す取組です。

平成19年度は、商工団体・市町村などの協力を得て12～2月の間に実施し、啓発のためのポスターを配布します。

(3) エコドライブの推進

自動車の運転時に急発進・急ブレーキなどの「急」

な運転を控え、長時間停車する時にはエンジンを切る「アイドリングストップ」を実行するなど、環境と燃費にやさしい運転を心がける取組です。

平成19年度は、運輸関係団体などの協力を得て啓発を実施します。

フロン回収破壊法

(清流・環境課)

オゾン層破壊の原因物質であるフロンなどを確実に回収、破壊することを目的として、平成13年6月に「特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律（フロン回収破壊法）が制定公布されました。

この法律では、特定製品（業務用冷凍空調機器等）を廃棄する際には、定められた業者（登録業者）に引き渡し、冷媒フロン類の回収等が義務付けられました。

また、平成19年10月から、特定製品の廃棄を依頼する者は、書面によるフロン回収の依頼が義務付けられるなど、関係者の役割やフロン回収の手続がより明確になりました。

フロン回収破壊法に基づく登録事業者数

(平成19年4月1日現在)

登録業者の種別	登録事業者数
第一種フロン類回収業者	171

パーク・アンド・ライド (P&R) 事業

(交通政策課)

実施した取組

高知市周辺では、国・県・市・交通事業者が協力してパーク・アンド・ライド事業を行っています。

この事業は、郊外に駐車場を用意して、そこからは、電車やバスに乗り換えて目的地へ向かってもらうという取組です。

これにより、高知市中心部に流入する自動車の台数が減ることによる交通渋滞の緩和や公共交通機関の活用によるエネルギーの効率的な利用、排気ガスや騒音の削減など環境面への効果などが期待されます。

なお、この駐車場の利用は無料ですが、路面電車やバスの定期券を購入することなどの条件があり、月単位の利用になります。



美術館通P&R

○P&R駐車場（H20.3.1現在）

1. 県立美術館通
 - ①高知市
 - ②路面電車
 - ③162台
 - ④162台
 - ⑤7,070円
2. 土佐電鉄棧橋車庫
 - ①高知市
 - ②路面電車
 - ③15台
 - ④15台
 - ⑤7,070円
3. 土佐電鉄後免町駅構内
 - ①南国市
 - ②路面電車
 - ③49台
 - ④33台
 - ⑤16,740円
4. 土佐電鉄伊野車両置場
 - ①いの町
 - ②路面電車
 - ③15台
 - ④5台
 - ⑤16,740円
5. 土佐電鉄鏡川橋
 - ①高知市
 - ②路面電車
 - ③85台
 - ④44台
 - ⑤7,070円
6. 高知県交通一宮営業所
 - ①高知市
 - ②バス
 - ③192台
 - ④38台
 - ⑤8,740円

※駐車可能台数は高速バス用を含む

※①所在市町名 ②主な利用交通機関

③駐車可能台数 ④利用台数

⑤はりまや橋までの1ヶ月定期料金

実施しようとする取組

今年度新たに、コンビニエンスストアの駐車場を利用したパーク・アンド・バスライドを試験実施します。

場所：ファミリーマート高知横浜店

台数：5台（平成20年3月1日現在の利用台数：2台）

期間：平成19年9月1日

～平成20年8月31日

利用条件

：QUOカード（※）及び定期乗車券の購入

（※）QUOカード 全国共通のプリペイドカードです。

新エネルギーの導入促進

(循環型社会推進課)

地球温暖化や化石燃料の枯渇等の問題が深刻化する中、再生可能エネルギーが注目されています。再生可能エネルギーは、環境への負荷が少なく、自然環境の中で繰り返し利用して得られるエネルギーのことです。

このうち、新エネルギーは技術的に実用段階にあるものの、経済性の面で普及が十分でないものを目指します。具体的には次の図のとおりです。



○新エネルギーの導入促進

太陽の光・熱エネルギー、風の力といった地域の資源を活かす新エネルギーを導入する場合、各地域にどのような特性、可能性があるかを市町村、関係団体、住民の方々が一緒に検討する「地域新エネルギービジョン」と呼ばれる導入プログラムを作ることから始めるのが一般的です。

県では新エネルギーの導入に具体的につながる市町村のビジョン策定を推進しています。

現在、県内では策定中の市町村も含め16市町村、2つの広域ののべ24市町村で新エネルギービジョンが策定されており、それらの中から実際に取り組む新エネルギーの導入調査や事業化が検討されます。

○四国四県風力発電推進ビジョンについて

四国では、平成15年10月に愛媛県においてウィンドファームといわれる大規模集中型風力発電所が稼働し、高知県内でも複数地域で計画が進行しています。

このように、本格的な風力利用の段階を迎えようとしている四国において、事業を推進するうえでの広域的な課題を把握・整理し、地域振興に結びつく導入手法を検討することにより、行政、地域住民、事業者等関係者が共有できる共通の指針を策定しました。

策定されたビジョンは、四国におけるウィンドファーム建設に際して、関係者が合理的かつ建設的に協議を行うための指針となるとともに、「風」という地域の資源を有効に活用する地域振興スキームを提示することで、四国における潜在的な風力発電への取組を顕在化させることが期待されます。

【新エネルギービジョン策定】

県・市町村	名称	策定期期	備考
高知県	高知県地域新エネルギービジョン	平成9年3月	
	四国地域新エネルギービジョン【重点テーマ】 「風力発電の推進のための四国四県共同ビジョン」	平成17年2月	
	土佐湾地域新エネルギービジョン【重点テーマ】 「洋上風力エネルギーの利用・調査」	平成17年2月	
室戸市	室戸市地域新エネルギービジョン	平成18年2月	
安芸市	安芸市地域新エネルギービジョン	平成15年2月	
	安芸市地域新エネルギービジョン【重点テーマ】 「森林/バイオマス利用に係る具体化検討調査」	平成18年2月	
土佐市	土佐市地域新エネルギービジョン	平成10年3月	
須崎市	須崎市地域新エネルギービジョン	平成18年2月	
四万十市	西土佐村地域新エネルギービジョン	平成14年3月	旧西土佐村
	西土佐村地域新エネルギービジョン【重点テーマ】 「バイオマスのカスケード型活用の可能性」	平成16年2月	旧西土佐村
香南市	香南市地域新エネルギービジョン	平成19年度	策定中
香美市	香北町地域新エネルギービジョン	平成13年3月	旧香北町
東洋町	東洋町地域新エネルギービジョン	平成15年2月	
	東洋町地域新エネルギービジョン【重点テーマ】 「バイオディーゼル燃料化事業可能性調査」	平成16年2月	
田野町	田野町地域新エネルギービジョン	平成17年2月	
安田町	安田町地域新エネルギービジョン	平成16年2月	
いの町	いの町地域新エネルギービジョン	平成18年2月	
	吾北村地域新エネルギービジョン	平成11年3月	旧吾北村
佐川町	佐川町地域新エネルギービジョン	平成19年2月	
梶原町	梶原町地域新エネルギービジョン	平成11年3月	
	梶原町地域新エネルギービジョン【重点テーマ】 「烏帽子山風力発電事業化調査」	平成19年2月	
中土佐町	中土佐町地域新エネルギービジョン	平成16年2月	
四万十町	大正町地域新エネルギービジョン	平成10年3月	旧大正町
大月町	大月町地域新エネルギービジョン	平成15年2月	
県西部 14市町村	高知県西部地域新エネルギービジョン	平成16年2月	
嶺北地域	高知県嶺北地域新エネルギービジョン	平成16年6月	

【風力発電施設】

県・市町村	場所	事業実施主体	出力	運転開始
室戸市	室戸スカイライン	四国電力(株)	300kw	平成6年9月
香南市	龍河洞スカイライン周辺	高知県	250kw	平成7年4月
大豊町	ゆとりすとパーク大豊	高知県	600kw×2基	平成11年4月
梶原町	四国カリスト周辺	梶原町	1000kw×2基	平成11年11月
香美市	土佐山田ゴルフクラブ内	大旺建設(株)	225kw	平成12年1月
香美市	甫喜ヶ峰	高知県	750kw×2基	平成16年1月
津野町	黒川峰～鶴松森	(株)葉山風力発電所	1000kw×20基	平成18年1月
大月町	ムクリ山周辺	(株)大月wind/ワー	1000kw×12基	平成18年9月

【太陽光発電施設】

県・市町村	場 所	事業実施主体	出力	運転開始	
室戸市	道の駅「きらめっせ」	室戸市	20kw	平成8年7月	
田野町	四国銀行田野支店	民間企業	10kw		
安芸市	日本高度紙工業 安芸工場	民間企業	20kw	平成11年12月	
香南市	県立のいち動物公園	高知県	70kw	平成7年3月	
	ギフトショップ「東武ギフト」	民間企業	10kw	平成12年6月	
南国市	高知工業高等専門学校	高知県工業高等専門学校	40kw	平成11年度	
	高知空港ビル株式会社	民間企業	10kw	平成13年度	
	フレンド幼稚園	学校法人	10kw	平成15年度	
	高知セキスイハイム(株)南国倉庫	民間企業	30kw	平成16年度	
高知市	高知大学小津団地	高知大学	30kw	平成11年度	
	香長建設	民間企業	10kw	平成12年1月	
	(株)四銀桂浜通支店ビル	民間企業	10kw	平成14年度	
	コープ吉田店	市民団体	3kw	平成15年5月	
	(株)四銀福井支店ビル	民間企業	10kw	平成15年度	
	あたご幼稚園	学校法人	10kw	平成15年度	
	若草幼稚園	学校法人	10kw	平成15年度	
	老人福祉施設福寿園	高知市	13kw	平成16年2月	
	美術館通給油所	民間企業	11kw	平成16年度	
	上町給油所	民間企業	11kw	平成16年	
	RKC調理師学校	学校法人	10kw	平成18年3月	
	土佐市	土佐市保険福祉センター	土佐市	30kw	平成11年4月
		三和製紙本社工場	民間企業	50kw	平成12年度
河川浄化施設(宇佐町竜地区)		土佐市	10kw	平成9年度	
いの町	デイサービス寿幸園	医療法人	10kw	平成12年度	
	いの町立伊野南小学校	いの町	30kw	平成13年度	
越知町	越知町民会館	越知町	20kw	平成13年度	
佐川町	ピバンティ佐川ISS	民間企業	10kw	平成16年度	
須崎市	一般廃棄物処分場	須崎市	40kw	平成14年度	
	須崎市リサイクルプラザ	須崎市	20kw	平成15年度	
	一般廃棄物処分場	民間企業	300kw	平成17年度	
梶原町	梶原町立越知面小学校	梶原町	50kw	平成15年度	
	四万十交流センター	梶原町	19kw	平成16年度	
	高齢者合宿施設「いやしの里」	梶原町	10kw	平成16年度	
	西区生涯学習館	梶原町	14kw	平成16年度	
	高齢者合宿施設「はつせ」	梶原町	17kw	平成16年度	
	松原ふれあいセンター	梶原町	16kw	平成16年度	
	梶原座	梶原町	13kw	平成16年度	
	地域活力センターゆすはら・夢・未来館	梶原町	32kw	平成16年度	
	梶原町新庁舎	梶原町	80kw	平成17年度	
	梶原町立梶原小学校校舎・体育館	梶原町	60kw	平成17年度	
津野町	(株)山興	民間企業	10kw	平成14年度	
	ナカテレビ	民間企業	10kw	平成18年3月	
四万十町	四万十町立田野々小学校	四万十町	30kw	平成12年4月	
	オートキャンプ場「ウェル花夢」	四万十町	5.5kw	平成12年度	
	四万十町大正支所	四万十町	10kw	平成13年度	
	四万十町立昭和保育園	四万十町	10kw	平成15年度	
	四万十町老人福祉施設	四万十町	10kw	平成16年度	
	東和存立学校給食共同調理場	四万十町	10kw	平成17年度	
黒潮町	黒潮町佐賀庁舎	黒潮町	10kw	平成14年度	
	黒潮町くじら保育園	黒潮町	10kw	平成15年度	
	ピオス大分情報館	高知県	2kw	平成16年度	
四万十市	四国電力(株)中村支店	四万十市	2kw	平成9年度	

【廃棄物発電施設】

県・市町村	場 所	事業実施主体	出力	運転開始
高知市	高知市清掃工場	高知市	9,000kw	平成14年4月
四万十市	幡多クリーンセンター	高知西部環境施設組合	1,800kw	平成14年12月

【廃棄物燃料製造施設】

県・市町村	場 所	事業実施主体	出力	運転開始
津野町	クリーンセンター四万十	津野町広域町村事務組合	6t/日	平成10年4月
中土佐町	ごみ固形燃料施設	高幡東部清掃組合	53t/日	平成14年4月

【県内の太陽光発電システム普及補助金実施市町村】

土佐市 【補助】	3万円/kW 12万円上限 【連絡先：生活環境課 088-852-7647】	平成13年度開始 (平成18年度見直し)
梶原町 【補助】	20万円/kW 4kW上限 【連絡先：環境整備課 0889-65-1251】	平成13年度開始

風力発電

(公営企業局電気工水課)



■大月ウィンドファーム

風力発電は、風の力で風車を回して電気を作ります。自然の風のエネルギーで発電を行うため、発電するときに二酸化炭素など、環境に影響を与えるものを発生しないクリーンな発電方法です。このため、地球温暖化を抑制する手段の1つとして、風力発電所が日本各地で次々と建設されています。

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の調査によると、平成19年3月末時点での全国の風力発電所の総設備容量は1,490,527kW、設備基数は1,314基となっています。高知県では、同時点での風力発電所の設備容量は36,675kW、設備基数は41基(8ヶ所)です。

風力発電所は、地球環境保全のシンボリックな存在となっており、その施設を観光や地域のPRなどに活用し

ている自治体が増えています。また、自治体が出資する第3セクター方式や市民が出資する市民風車という形態での事業化も実現しています。

高知県では、平成18年1月、津野町に中四国で最大となる1,000kW×20基の風力発電所が建設されました。また、平成18年9月から大月町でも1,000kW×12基の大規模風力発電所が運転を開始しています。津野町役場は、用地取得などで民間企業の全面支援を行い、大月町役場は、建設に直接投資しないが民間企業と地元の調整役を担い、地域の活性化につなげようとしています。

【高知県の風力発電所一覧表】

稼働年月	風力発電所名	設置者	設置場所	定格出力(kW)	台数(基)	総出力(kW)	電気の用途
平成 8年 9月	室戸風力発電所	四国電力(株)	室戸市室戸岬町	300	1	300	実証試験
平成 7年 3月	野市風力発電所	高知県公営企業局	香南市野市町	250	1	250	売電事業
平成11年 3月	大豊風力発電所	高知県公営企業局	長岡郡大豊町	600	2	1,200	売電事業
平成11年11月	梶原町風力発電所	梶原町	高岡郡梶原町	600	2	1,200	売電事業
平成11年12月	土佐山田風力発電所	大荘建設(株)	香美市土佐山田町	225	1	225	自家用
平成15年12月	浦喜ヶ峰風力発電所	高知県公営企業局	香美市土佐山田町	750	2	1,500	売電事業
平成18年1月	葉山風力発電所	(株)葉山風力発電所	高岡郡津野町	1,000	20	20,000	売電事業
平成18年9月	大月ウインドファーム	(株)大月ウインドワー	幡多郡大月町	1,000	12	12,000	売電事業
計					41	36,675	

地球環境や風力発電の 出前授業

[635千円]
(公営企業局総務課)

高知県は3ヶ所で、県営の環境にやさしい風力発電所を運転しています。この風力発電や地球環境に興味を持ってもらうことを目的に、職員が学校に出向く「風力エネルギー出前授業」を行っています。授業では風力発電や環境問題についての話、児童・生徒がペットボトルを工作した羽根を実際に発電に使う実験、職員が考案した装置を使った風に関する実験などを行っています。

また、小中学校の先生を対象にした「風力エネルギー研修会」を、高知県立東工業高校の協力をいただき、教育センターと共同で開催しています。この研修会では、職員が編集した「風力エネルギーブックレット」を使った環境問題や風のエネルギー、風力発電の原理についての説明、出前授業でも行っているペットボトルを使った風車の羽根の製作、実験などを行っています。先生に研修内容をそれぞれの学校での授業で活かしてもらうことにより、より多くの児童・生徒が地球環境について興味を持ち、考えるきっかけになればと取り組んでいます。また授業に利用してもらうため、教材のブックレットや実験材料の配布も行っています。



出前授業



風力エネルギー研修会

太陽光発電事業

[100千円]
(公園下水道課・のいち動物公園)

実施した取組

平成7年度に太陽光発電システムをのいち動物公園の駐車場に設置し、県民に環境意識の啓発を図るとともに太陽光発電の実用性を広く社会にPRし、平成18年度は次の業務を行いました。



1 発電事業

太陽光発電により発生する電力は公園全体の電力量に対して5～6%程度を補填しています。

平成18年度実績：約78千kw/h

2 啓発活動

来園者用発電表示板により発電状況をリアルタイムに表示して、環境問題に関心をもってもらうようにしました。

また、事前申込見学団体には概要説明により理解を深めてもらいました。

平成18年度実績：

一般 4団体 60人
小学校 6校 350人

実施しようとする取組

引き続き、これまでの発電事業や啓発活動を行います。

NEDO補助事業 (公園下水道課-のいち動物公園)

実施した取組

平成17年度から導入したNEDO（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）の民生部門等地球温暖化対策実証モデル評価事業の最終年度として、CO₂排出削減を目標に省エネの取組を進めました。

1 データ取得による解析、検討

夏季のエネルギー使用データを基に省エネ検討会を行いました。

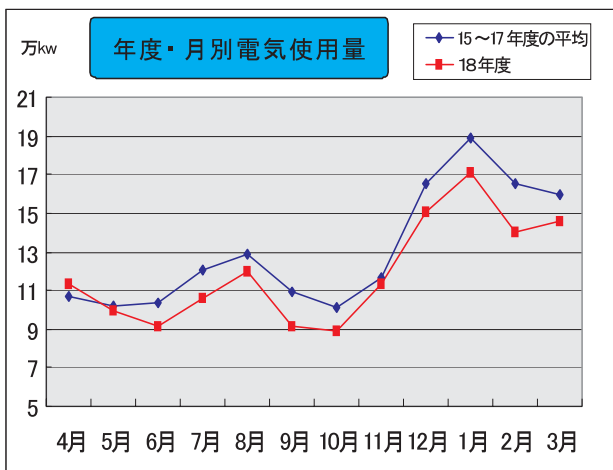
平成18年度実績：3回

2 省エネ規定・マニュアル作成及び実施

省エネ検討会での検討を基に空調機器の運用等を見直し、省エネマニュアル等を作成、実施しました。

平成18年度実績：

15～17年度平均電気使用量1,567,931kw/hに対して18年度電気使用量は1,432,215kw/hと135,716kw/h減少しました。



3 遮光フィルム貼付事業

レストラン利用者のために大きく取っている展望窓が空調効率を悪くしているのを窓全面（81㎡）に遮光フィルムを貼付けました。（19年1月施行補助率100%）

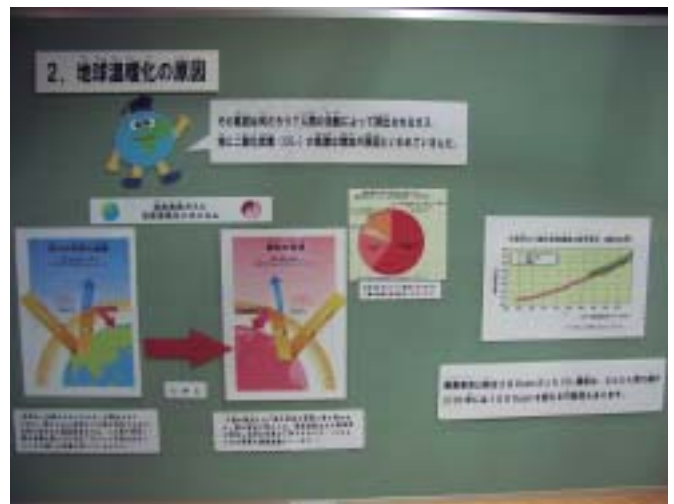


地球温暖化ストップに がんばっ展事業

[30千円]
(公園下水道課-のいち動物公園)

実施した取組

地球温暖化の仕組みや影響、当園での取組、ならびにWWF ジャパン（財団法人世界自然保護基金ジャパン）のパネル「地球温暖化とグリーンパワー」などを4月28日～7月1日まで展示し、環境問題への啓蒙を図りました。



ハイブリッド発電

(公営企業局電気工水課)



■公営企業局 総合制御所 (高知市鴨部)

太陽光発電や風力発電、水力発電などの異なった発電方式を組み合わせた発電システムをハイブリッド発電といいます。これには、太陽電池と風車にバッテリーを組み合わせた小型のタイプが最も多く、相互の発電特性を補い合いながら電気を供給します。

公営企業局では、自然エネルギーを利用した発電システムの普及啓発を行うことを主目的として、平成16年9月に「風力・太陽光ハイブリッド街路灯・街路時計」を、公営企業局総合制御所(高知市鴨部)に設置しました。

街路灯の上部に、サボニウス型風車と太陽電池パネルが設置されており、風力と太陽光で発電した電気で電灯をともし時計を動かします。地震などの天災で停電してもこれは影響を受けませんので、災害発生時には避難灯としても活躍します。

高知県のハイブリッド発電街路灯一覧表

設置年月	設置場所	設置・管理者
H14.9	土佐市宇佐町井ノ尻	中央西土木事務所
H14.9	土佐市宇佐町宇佐福島	//
H14.11	土佐清水市中ノ浜	幡多土木事務所(土佐清水事務所)
H15.1	土佐清水市三崎漁港	//
H15.1	高知市花街道	高知土木事務所
H15.12	高知県立美術館	文化環境部
H16.2	高知高等技術学校	商工労働部
H16.2	中村高等技術学校	//
H16.3	土佐山田町テクノパーク	//
H16.10	公営企業局総合制御所	公営企業局

木質バイオマス エネルギーの利活用

(木材産業課)

実施した取組

木質バイオマスエネルギーの利用を進めることは、化石燃料の使用量の削減につながり、二酸化炭素の発生を抑制し、地球温暖化防止に役立つと言えます。

木質バイオマスを有効に活用するために、これまで木材を伐採・搬出する過程等で、バイオマス資源として利用するコストを調査したり、木質バイオマスを利用する機器類の普及PRや研修会などの啓発活動を行っています。

平成18年度には、高知県木質バイオマス活用プランを策定し、4つの重点事項を定め市町村をはじめ、木材産業関係者、研究機関、企業等と連携しながら取り組んでいます。

実施しようとする取組

今年度も引き続き、「木質バイオマス活用プラン」に掲げる目標値の達成に向けて、下記の取組を行います。

- (1) 市町村等が策定するバイオマスタウン構想への支援
- (2) 企業等における木質バイオマス利用への支援
- (3) 製材工場等への木屑焚きボイラーの導入促進
- (4) 園芸ハウス用木質バイオマス加温ボイラー利用への支援



仁淀川町が取り組む木質バイオマス発電の設備

中山間地域における森林バイオマス資源の有効利用技術開発事業 (産業技術部研究開発課)

研究期間：H16～19年

研究費：1,957千円 (H19年度予算)

研究機関：森林技術センター、工業技術センター
：農業技術センター、民間企業

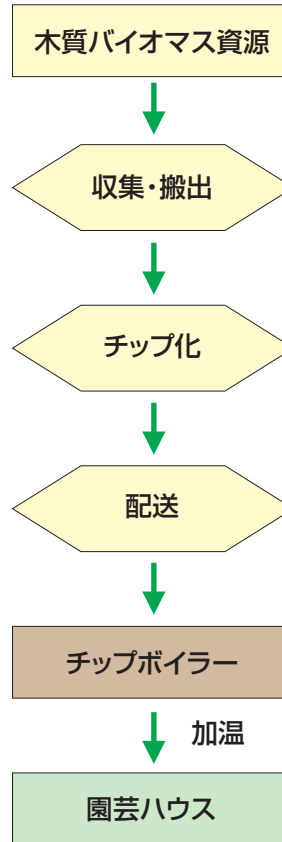
産業技術部では、環境に優しいエネルギーとして着目されている木質バイオマスを、本県の基幹産業である施設園芸の暖房用エネルギーとして利用するための研究開発に取り組んでいます。

県内の園芸用ハウスでは、主に重油を燃料としたボイラーを使用し、年間約10万klの重油を消費し、燃焼に伴い排出されるCO₂の量は約30万トンにも及んでいます。木質バイオマスの利用促進はCO₂の排出抑制はもとより、林業など産業振興の面からも波及効果が大きいと考えられます。

本事業は、物部川流域をモデル地域とし、流域上流の森林から木質バイオマスを収集・搬出、チップ化したものを低コストで安定的に下流の園芸地帯に供給し、ハウス園芸用木質チップボイラーの燃料として利用するシステムを構築しようと取り組んできましたが、開発していた木質チップボイラーの燃焼灰に、重金属が混入する問題が解決できず、平成19年8月に中止しました。

その後は、民間企業等が行っている木質バイオマスボイラーの開発や燃料となるチップなどの低コスト安定供給システムについて、早期実用化を図るため技術支援を行っています。

【研究開発システムフロー】



造材・搬出作業



林地残材



チップ化

